

SUPER PONY ACTION 2020

障害予防と無限の可能性の探求と育成

Super Pony Action Philosophy

成長期で体の変化が最も多い中学生の年代に於いては、スポーツ障害予防を第一に考える必要がある。

我々中学生年代のスポーツを対象とした団体、及び指導者は、

第一に 子供の健康を考えること

第二に 将来のための育成時期であること

を念頭に置くべきである。

障害は予防できるものであり、障害の発生は取り組み方法次第でなくすことが出来る。

Protect Our Nation's Youth

(国の宝である青少年の成長を守る)

PITCH ACTION

投手の障害予防のみならず、無限の可能性を秘めた選手の中から、多くの投手を育成し投手としての才能を引き出す。球数制限というマイナス思想ではなく、

積極的に投手の障害予防を図りつつ、多くの選手の中から投手としての才能を見出す取り組みを取り組み「PONY SUPER PITCH」としてポジティブに取り組む。

【PONY SUPER PITCH】

- ・ 限られた球数の中で1人でも多くの打者をアウトにする投手が PONYスーパーピッチャー
- ・ 仲間を信じてマウンドを譲れる心を持つ選手が PONYスーパーピッチャー
- ・ 無限の可能性を秘めたポニーリーガーに、先発・中継ぎ・抑えなどの役割を経験させ投手としての才能を積極的に見出すのが PONYスーパーリーダー
- ・ 全員が一丸となって戦うチーム・選手が スーパーPONYリーガー

PONY Super Pitch Program

PITCH Scale (投球目安)

中学1年生	1試合の投球数	60球	週間投球数	180球	変化球禁止
中学2年生	1試合の投球数	70球	週間投球数	210球	体の負荷となる変化球禁止
中学3年生	1試合の投球数	80球	週間投球数	240球	

*投球数の定義：バッター相手のマウンドからの投球（試合前投球練習は週間投球数に含む）
8割強度以上のスローイング

*12月1月は極力投球を控える。特に肩・肘に既往歴のある選手は投球数に入る投球禁止

*同日の連投及び投手捕手兼任は禁止。

*1日の投球数が50球を超えた場合、翌日は投球数に入る投球禁止

*3連投は禁止する。

Protect Our Nation's Youth

(国の宝である青少年の成長を守る)



指導者が選手の体を守る

PONY Super Pitch Program

Tournament PITCH Limit(投球限度)

中学1年生	1試合の投球数	60球	変化球禁止
中学2年生	1試合の投球数	75球	
中学3年生	1試合の投球数	85球	

- *同日の連投及び投手捕手兼任は禁止。
- *1日50球以上投球を行った場合、投手休養日1日を設定
- *3連投は禁止する。
- *同一試合の再登板は認める
- *上記ルールとPONY投球イニング制限・中学生投手の投球制限に関する統一ガイドラインを併用する

Protect Our Nation's Youth

(国の宝である青少年の成長を守る)



指導者が選手の体を守る

PONY Super Promotion PROGRAM

国際標準バット(USAバット)の導入

投手負担軽減策、及び投手ライナーや強襲ヒットなどの危険から回避すること
さらには、投手の原点教育(直球のキレと制球力)・打撃の原点教育(芯でボールを捉える)
の観点から、各連盟で開催される1年生大会、及び全日本選手権大会・ポニーブロンコ大会は
USAバットの使用を義務付ける。

なお、導入に際して、各リーグへ国際標準バット2本を協会より寄贈する。

Coaching Standard Limit

怒声罵声のある
指導・応援 …… イエローカード制を導入(審判・球場責任者に発行権付与)
(人が不快と感じる音量・言動に対して発行する。)

喫煙場所の確立 …… 喫煙場所を守らない関係者に対して、役員・球場責任者の裁量で
注意喚起、及び大会本部への報告
選手の視界に入らず、喫煙者以外が受動喫煙しない喫煙場所の設定

Protect Our Nation's Youth

(国の宝である青少年の成長を守る)

PONY Super Promotion PROGRAM

その他のルール改訂

- 広澤克実杯 全日本地域対抗選手権大会に於いては、送りバントを禁止する。
 - リーグ戦時の順位決定方式について
「野球は試合に出て学ぼう」の理念のもと、全ての選手が試合に出て学びやすい環境を整えるべく、順位決定基準の一部である「失点差」を「得失点差」に一律改定する。
 - 申告敬遠の導入
投球数制限を拡張したこと、さらにはジャイアンツカップに於いても導入されていることから「申告敬遠制度」を導入する。
 - 装具規定の見直し
眼球保護を目的に指導者にもサングラス着用を認める。但し、使用製品の基準は選手同様黒単色のものに限る。
(但し、医師診断書等により上記以外が適当と判断される場合はこの限りではない)
- 汗拭き用としても有用であることから、白以外の単色(装飾もメーカーマークのみ)のリストバンドの着用を認める。

Protect Our Nation's Youth

(国の宝である青少年の成長を守る)

PONY Super Promotion PROGRAM

Easy Scoreの導入と公式記録部の新設

PONY Super Pitch Programをより円滑に運用するために、Easy Scoreを導入する。これにより、球数表示を迅速かつ明確にするとともに、父兄・関係者がより関心を持ってポニーリーガーを見つめ続けられることとなる。

Easy Scoreの導入とともに、協会本部、及び各連盟組織内に公式記録部を新設し公平かつ正確なデータ入力と保管の責任部署として機能させる。

上記により、現代の野球界に求められている父兄の負担軽減策(スコアラ―減員)の一助となるとともに、各大会での個人賞(首位打者・最優秀防御率等)の設定が可能となり選手・父兄ともに魅力増策の一環となり得る。

Protect Our Nation's Youth

(国の宝である青少年の成長を守る)



選手への関心の向上が成長を加速させる

PONY Super Promotion PROGRAM

PONY Super Growing up Plan

- PONY SUPER グランドチャンピオンシップトーナメントを新設する。
出場資格は
 - ・全日本選抜大会 優勝
 - ・全日本選手権大会 優勝・準優勝
 - ・各連盟主要大会 優勝以上8チームによる年度最強リーグ決定戦を実施する。
9月の3連休時に実施。
- 毎年10月～11月に全日本ポニーブロンコ大会を開催する。
(優勝・準優勝チームは東アジア選手権大会(12月度 パンダカップ(於:中国 中山市))に参加する。
- ポニーフェスタと称し、肩・肘のメディカルチェック、栄養学教室、アップ・トレーニング教室等を行いつつ運動会的なスポーツ行事も実施する。

Protect Our Nation's Youth

(国の宝である青少年の成長を守る)

PONY Super Promotion PROGRAM

Super Bond of Pony Family

- 選手登録費の改訂
 - ◆ 規則改訂時のEasy Scoreプログラム改訂準備金として、2020年度より選手登録費を1,000円増額し、年間選手登録費を現行の6,000円/年から7,000円/年とする。
 - ◆ また、2021年度以降の全日本選手権大会への地方連盟からの参加遠征費支援を目的に関東連盟の選手登録費を現行の7,000円から10,000円に増額する。

- AP日本代表選手の大会参加費改訂について
 - ◆ AP日本代表選手のアジア大会参加費(含:滞在費)を、現行の35,000円から30,000円に減額する。
 - ◆ また、ワールドシリーズの参加権を得た場合の参加費(含:滞在費)を、現行の150,000円から100,000円に減額する。

- 全国大会参加費の新設
 - ◆ グランドチャンピオンシップトーナメントの参加費(含:滞在費(3泊4日))を30,000円/人に設定する。

Protect Our Nation's Youth

(国の宝である青少年の成長を守る)

PONY Super Promotion PROGRAM

Super Bond of Pony Family

- 審判組織の見直しと審判配置について
 - ◆ 教育と待遇の見直しを図るべく、関東連盟・関西連盟・沖縄連盟の専属審判員を本部組織に組み入れ、本部審判部所属とする。
 - ◆ 当該連盟長は、本部審判部長、及び各連盟担当審判長に、各連盟主催大会に於ける審判派遣要請を行う。
 - ◆ 協会本部は、各連盟に対し実働試合数分の審判費用を請求する
 - ◆ 各連盟主催試合では、父母の負担軽減を目的に、可能な限り「当該試合での登録員審判員の活用」を行うこととする
 - ◆ また、連盟主催試合に際して本部審判部は、必要な資格・講習を受講した責任審判員1名を各球場毎に配置し
 - ・ 各球場本部席で試合を凝視し
 - ・ 協議事項・両チームへの説明が必要な事象が発生した場合の試合を中断させ、4氏審判員協議の場の設定及び協議に加わる権限、両チーム監督への説明に加わる権限を付与する。（責任審判員に対する本権限と同一権限を、本部審判部長・副部長連盟担当審判長にも付与する）
 - ◆ 上記人員を満たすべく、全リーグを挙げて専属審判員の増員活動を積極的に展開する。
 - ◆ 登録審判員の審判服を3ヶ年の猶予期間を設けつつ統一化を図る。